

出 思 中 の 学 在

寿 満 藤 佐



私は明治三十九年に未亡人となりまして子供一人御座いました為、何とか一つの職にありつき度いと思つて居ましたところ、翌年二月、或雑誌を読んで居ました時、東京女子高等師範学校に保育実習科があり、四カ月以上二カ年以内で卒業が出来主任保母となれるという記事を見まして、之はよいお仕事だと存じました。私は女学校を出て十年経て居ますので入学試験を受ける資格があるのかと思ひ問合せましたところ、ありますとの御返事をいただき、早速入学願書を出し、

〆切ぎり〳〵で十七番の受験票をいただきました。其内八名採用との事でしたから半数より入れないわけですが、私は年の効でも入れるかとのんきにかまえて居ました。いよいよ試験の始まります日、京都より夜行汽車にて翌朝新橋駅につき、荷物を持って学校に行き、小使室に荷物を預け受験場に入りました。ところが受験席が四十番までであり驚きました。可成り年とつた方もあり、偉らそうな方もあり、数えますと十人以上もあります。私の様な田舎者では入学覚束ないと

存じましたが、折角出て来た事ですから最後までがんばりましたところ、幸にして十人の中に加わる事が出来ました。

受験後十日程いたしますと学校から出頭せよとの御通知をいただき、何の御用かと傍もつけずに出かけましたところ、今日は入学式との事に驚きました。また保育実習科という名の通り、一日だけ受持先生の保育を拝見しその翌日から実習です。受持先生から時間表をいただき、幼児達へ話すままの事を書きとめて参り、受持先生へ差出し、保育の始まる前一時間学科の先生から即ち中村主事先生から倫理、和田先生から保育、東先生から児童心理等教えて頂き、それから実習となり、午後一時半幼児の退園後受持先生から批評を伺い、次に保育の実際、遊戯、手技、音楽等を学び、ピアノ練習、図書室にて参考書も読み、翌日の準備もせねばならぬという忙しい毎日御座いました。

私は三の組受持で雨森先生から御指導を受けましたが、先生は小笠原伯爵家の家庭教師をなさりながら女高師におつと

めの事とて、よく伯爵家のお話を承る事が出来ました。いつも幼児には幼児言葉をを用いるなど仰せられました。例えばおててとかあんだよ、下流社会では母親は忙しくて幼児の世話ばかりして居られませんが、幼児は早くから自己意志発表の為片言を申します。上流家庭ではお付の方がありません、幼児は口を利かなくとも用が達しますから言葉を口にする事はおそくなりませんが、言い出せば完全な遊ばせ言葉が出来ますとの事でした。私は関西人ですからアクセントが違い、いつも幼児から笑われて居ましたので幼児へのお話の時間には苦勞いたしました、成可く余計な言葉は使わない事にして話の要点筋道だけを話す事にして居ましたところ、先生から、それでよい、幼児は各児発達の程度に応じて想像して聞くから余り形容を沢山使わない方がよいと仰しやっていただき、やれやれと思いました。また私の宿舎は東京にありませんでしたから横浜の兄の家から一月ばかり通って居ましたが、学校から成可く東京に住まう様命ぜられましたので、下宿

居をして居られました岡山の岡さんと御一緒に小石川安藤坂の基督教女子青年会の寄宿舎から共に一年間通学いたしました。

一学期の終り七月の初めに実習生の実地保育の試験が御座いました。お庭で唱歌遊戯をするという新しい試みをいたしましたして「起きよ起きよ塙の雀」をいたしまして「塙を出てて」と歌い出しましたところ、幼児達は一人残らず飛出してお庭の遠くの方へ行つて仕舞いました。私は何としてこれをまとめようかと心配いたしましたのが、私の元の位置でしやがんで起きよくと大きな声で歌いましたら幼児達は皆帰つて参り、次の遊戯をつづける事が出来ましてやれやれと思いたしました。

二学期からは午前中は本校の先生の方の実習で、私達実習生は午前は学課午後実習という事になり、先生なしで全く自由な実習で御座いました。或時学校からの指令で実習生一同横浜の幼稚園を參觀いたしましたして、そこで「結んで開いて」のお遊戯を覚えて参り、帰園後各組一斉

に幼児に教えましたところ、先生から、学校では新しい事を教える場合は一応職員会にかけなければいけないのだとお叱りを受けました。

三学期になりますと、毎週土曜日は參觀日で、学校よりの添書を持つて都内の各幼稚園を參觀させていただきました。何分実習生は全国から集つて居るものですから東京の地理にうとく、電車を乗り間違えたりして約束の時間に約束の場所に集る事が出来ず、或時は予定の園まで行く時間がなく、止むを得ず近くの小さい私立幼稚園を拝見させていただきましたところ、そこでは六十歳過ぎの保姆さんが「まさかりかついで金太郎」とおどつて居られましたのを見て、お互に五十過ぎたら幼稚園をやめる事にしましょうと申し合われましたが私は六十六歳で発病するまで続けました。尤もお遊戯だけはお若い保姆さんにお任せ致しました。また一度は東洋幼稚園を拝見させていただきましたところ、岸边先生は男子ですから美事な男性的な保育ふりで、毎朝沈黙の時間があり、おすもうがあり番付

で出来て居る有様。其日はまた雪ふりで、お庭で雪合戦が始るといふ特殊な保育法に一同大いに感銘いたしました。もう一度東洋園を參觀させていただき度いと申し出て、先生から何事もかぶれてはいけないとてお叱りを受けました。

今一つは学習院を拝見致しまして、野口幽香子先生に質問したりいろいろ教えていただきましたのですが、先生は一面学習院におつとめになりまた一面貧民窟の二葉幼稚園を御経営になつて居られましたので、どの点でお骨折りが違いますかとお尋ねいたしましたところ、何れも子供同士仲よく遊ばせるという点に骨が折れますとの御返事でした。上流家庭ではいつもお付がお相手で子供同士で遊ぶ機会がありません、下流家庭の子供はいつも子供同士遊んで居ますが仲よく遊ぶという事を知らない、との事でしたので成程と合点が参りました。今一つの質問は幼稚園という所は骨の折れる所で効の見えない所ですと申しますと、先生は、幼稚園の効果を幼稚園で見るのは無理ですよ、幼稚園の効果は大学に行つて

初めて判るのですよと仰しやっていただき、ハ、ハ、野口先生の様なお偉い方になさつても幼稚園で効果がみられないのなら、我々平凡な者では一生効果が見られないのだな、まあまあそれでは無邪気な幼児を相手に其日々々々を楽しく過ぎていただければよいとしましうとあきらめました。が、不思議にも、私は横浜で一年、神戸で八年、郷里岸和田に帰りまして個人経営の園を二十八年いたしました。が、成程二十歳を過ぎますと訪ねて来られ、女の子は幼稚園を無酬で手伝つて下さる人があり、また或るグループでは私の慰安の会を催したり、また一つのグループでは毎年私の誕生会を催したり、尚喜ばしい事にはお母さん方のいろいろのグループで私の為いろいろな催しをして下さる等、全く幼稚園のおかげと喜んで居ます。

一寸余談になりますが一言述べさせていただきます。私は大正五年神戸をやめて郷里に帰り、日曜の他六日開用のない基督教會堂を利用していただき幼稚園をいたして居ます時、倉橋先生が何と名

をつけたかとお仰しやつて下さいましたので、名なしの幼稚園でおぼさん二人でいたして居ますと申し上げましたら、それではおぼさん幼稚園ですねと申され、私はよい名をいただいたと喜んで居ましたが、二年半後教會が移転する事となり、新に園舎を新築いたし鳩集園と名のつて二十八年いたしました。幸な事には、在職中に学習院の宇佐美先生、和田先生、倉橋先生、久留島先生、神戸の望月先生、大阪の膳先生等、知名の先生方のお出をいただいた事は私の光榮で御座います。

実習科時代の思い出も数々御座います。が此度はこれ位にして置きます。和田先生、倉橋先生も御永眠にて、私共同期生の殆んども永眠せられ誠に淋しくなりました。今は親しくお交りいたして居ますのは岡山の岡さんだけとなりました。今より十一年前病気の為幼稚園を隠退いたします時、倉橋先生から今後はいいお婆さんになりなさいと仰しやつていただきましたが今は七十八歳のお婆さんとなりました。(岸和田市岸城町一八〇九)